

## IPMによる畜産由来のハエ防除技術開発

### 【背景と目的】

都内における畜産経営にとって、畜産現場からのハエなどの害虫の発生は、家畜のストレスによる生産性の低下だけでなく近隣住民とのトラブルを誘発する。しかし、害虫駆除を殺虫剤だけに頼ることは、薬剤抵抗性獲得による殺虫効果の低下、環境への負荷の増大等に対する不安等の多くの問題を抱えている。そこで、殺虫剤散布に過度に頼らない、様々な技術の組み合わせによる畜産由来のハエ防除技術を開発する。

### 【研究概要】

ハエ捕獲シートの設置による発生時期の調査では、捕獲数は9～10月にかけて最も多く、シート色別捕獲数では青色が最も多く捕獲された。地面から40cmの高さで、地面との角度は90°（粘着面が牛舎向）に設置したシートで捕獲数が多かった。ハエ忌避剤に酢酸を用い、サラダ油で50倍に希釈したものをホルスタイン種前肢に噴霧したところ、噴霧後6時間までハエは飛来せず、3日後も未噴霧と比較し半数以下で、高い防除効果が認められた。サシバエが産卵場所として選択する6つの素材（以下、産卵床）を比較したところ、混合飼料（TMR）への産卵が多かった。産卵場所として誘引効果が高いと推測されたことから、あらかじめ昆虫成長制御剤を混合したTMRを産卵床としてプランターに入れ、青梅庁舎の牛舎10カ所に約2か月間設置し産卵を誘引した。産卵床設置後の6および7月の捕獲数は過去2年の平均捕獲数と比較し、半分以下に減少した。